

環境 報告書

SAGA UNIVERSITY,
Environmental Report 2025

2025年



環 境 方 針

基本理念

佐賀大学は、自然と調和のとれた営みを続けるための「知」の継承と創造を担い、教育と研究を通して地域及び社会に貢献する。

行動指針

- 1) 地球環境の保全・改善のための教育を行い、環境に配慮できる人材を育成する。
- 2) 地球環境の保全・改善のための研究開発に努める。
- 3) 地域環境保全のため、グリーン購入の推進、エネルギー、水使用量及び廃棄物発生の削減、資源リサイクル、化学物質管理などに努める。
- 4) 地域との連携のもとに自然環境保全に努める。
- 5) 教育研究などあらゆる活動において、環境に関連する法律、規制、協定及び学内規程等を遵守する。
- 6) 環境マネジメントシステムを確立し、すべての教職員、学生の参画のもと、これを継続的に運用して改善を図る。
- 7) 環境の視点を予算編成方針に反映させる。
- 8) あらゆる人に環境報告書を公開し、地球環境の保全・改善に対する取組の協力と理解を求める。

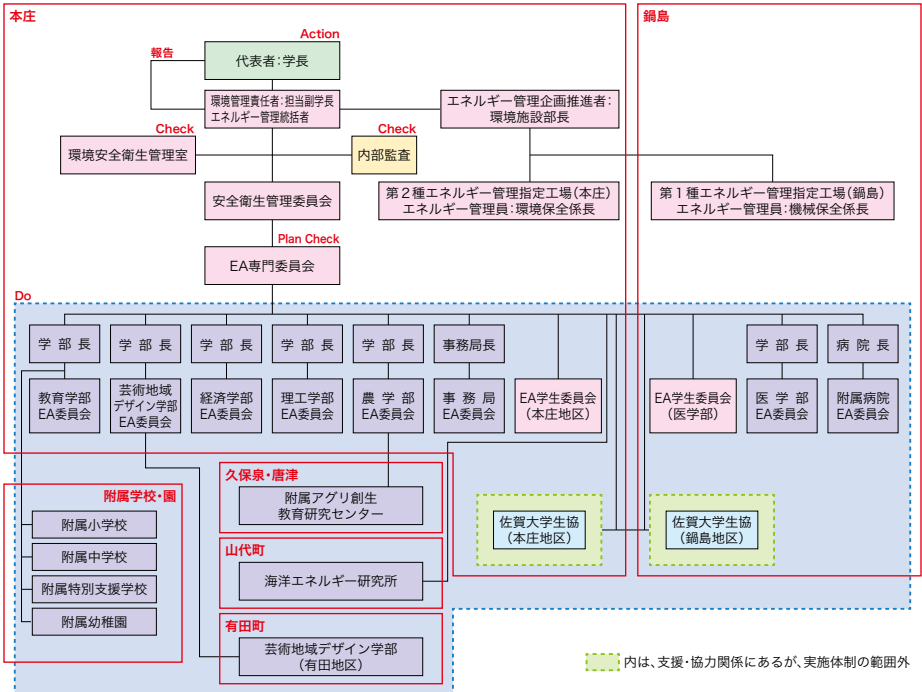
環境報告書の本編は、佐賀大学エコアクションホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

<http://www.saga-u.ac.jp/ecoaction/sub10.html>

エコアクションの取組

1) エコアクションの実施体制

2022 年 4 月改訂



2) 学生による取組

NPO 法人佐賀学生スーパーネット

- NPO 法人佐賀学生スーパーネットとは** NPO 法人佐賀学生スーパーネット（以下、スーパーネット）は環境保全事業として 2003 年秋頃より大学生協と協力して本庄キャンパス内でペットボトルリサイクル活動を開始しました。「環境・地域・人に貢献する心」をスローガンに掲げ、環境保護活動や教育支援といった活動に日々取り組んでいます。主な活動であるペットボトルキャップ回収については本庄キャンパス内だけでなく、佐賀県ユニセフ協会、佐賀市内の公民館や新聞社、県内各地の高等学校、スーパーマーケット、個人の方々からも集めています。集めたキャップを売却して得た利益は「NPO 法人 世界の子どもにワクチン（JVC）」へ寄付し、JVC からユニセフを通じて開発途上国へのワクチン代金として寄付する取組となっています。また、環境保護への取組として、竹切を行い、中山間地域の林業を支える他、資源の有効活動にも取り組んでいます。そのほか、様々な環境イベントへの参加を通じて、メンバー内だけでなく地域の人々の環境保護意識の向上を図っています。
- 活動について** 2024 年度も多くの方からキャップの回収に協力していただき、ワクチン代金として寄付することができました。また、2023 年度同様、ものスゴフェスタ・水辺フェスの参加を通じて、多くの方への取り組みの認知度向上、環境への意識づけに向けた活動を行いました。竹切りについては、三瀬の山や佐賀水ものがたり館で竹を切り、それらを使って、ワークショップや学祭で竹細工作り体験を提供しました。竹細工作り体験・竹細工の販売を通して、放置竹林の問題定義、都市と地域の交流の重要性を伝えていきます。これらの活動は学生ボランティア助成（一般財団法人学生サポートセンター）に採択され、2014 年度にエコさが基金受賞などの評価、2023 年度には国際ソロプチミスト佐賀様より学生ボランティア賞を受賞しています。また、2023 年度は 4 度目の学長賞を頂きました。
- 今後の取組** 今後の取組としては、これまで取り組んできたキャップ回収活動の継続に加え、学内外でのキャップ回収場所の増加を目指しより多くの学生や地域の方々にペットボトルの分別などの環境保護の意識づけを行っていきたいと考えます。今年度は部員も増えたためこれまでのイベントのみならず、その他のイベントにも積極的に参加したいと思えます。また、私たちの活動を周知して頂くことで、スーパーネットの部員のみならず佐賀大学生も一丸となって取り組めるような環境づくりを力を入れていきたいと思えます。

※取組の詳細につきましては環境報告書の本編をご覧ください。

3) 環境負荷抑制とその取組

① エネルギー使用量と削減に向けた取組

活動計画	結果
1. エネルギー使用量を調査・報告し、削減を促す。 エネルギー使用量等はホームページにて公開。	ホームページにて公開
2. 空調温度設定・使用方法を季節ごとに定め、実行を促す。室温が夏季は28℃程度、冬季は19℃程度になるように設定する。	各教職員室・教室で設定し実施
3. 省エネポスターを掲示し、電気使用量の削減を促す。	掲示板等にポスター等を掲示
4. 節電バトルを実施し、定期的に居室等を巡回する。	各部署で月1回程度実施
5. 節電チェックリストを作成し、状況を確認して小まめな節電に取り組む。	各部署で定期的に実施
6. クールビズ・ウォームビズを通年で実施して空調の温度を適切に調整管理する。	各教職員室・教室で設定し実施
7. ホームページを活用し電力の使用状況等の表示を行う。	ホームページにて公開
8. 最大使用電力の管理を徹底するため、通報システムにより、使用電力の削減を行う。	通報システムによる通報、24回実施
9. 待機電力の削減（電力のベースカット）に取り組む。	照明LED化
10. 建物等の新営・改修工事を行う場合は、省エネ法の中長期計画を踏まえた工事を行う。	計画を基に改修を実行。⑦参照

エネルギー使用量 目標：2023年度比 1%削減 実績：0.6%削減 ×

2024年度のエネルギー使用量（352,667GJ）は、2023年度比で2.0%の増加ですが、床面積当たりでは0.6%の削減となりました。これは、錦島キャンパスにおいて立体駐車場や薬局が新設され、エネルギー使用量と床面積の双方が増加した結果、床面積当たりでは削減となったものです（図①-1）。

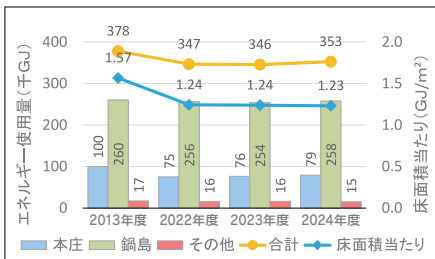
燃料別にみると、2023年度比で都市ガスは1.9%減少した一方、電気は3.0%、重油は4.9%、灯油は7.8%増加しました。これらの増加は、気候変動に伴う空調負荷の増加によるものと考えられます。ただし都市ガスについては、空調設備の更新によりガス方式から電気方式の空調機へ切换が進んでいることから、使用量が減少しています（図①-2）。

部署別に見ると、病院における都市ガス使用量やその他施設での重油使用量は減少したものの、それ以外の部署では各燃料のエネルギー使用量が増加しており、気候変動に伴う空調負荷の増加が影響していると考えられます（図①-3）。

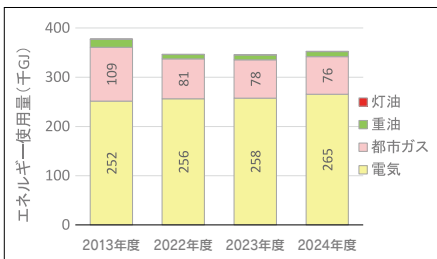
CO₂ 排出量

2024年度のエネルギー起源CO₂排出量（15,756t-CO₂）は、2023年度比で1.5%の削減、床面積当たりでは4.0%の削減となりました。また、2013年度比では27.4%の削減、床面積当たりでは38.9%の削減となりました（図①-4）。

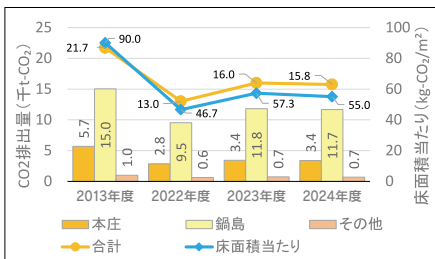
2022年度に策定したCO₂削減目標『2030年までに2013年度比46%削減するべく年間2%削減すること』については、2025年7月に見直しを行い、より高い目標である『2013年度を基準として、2030年度までにエネルギー起源のCO₂排出量を51%削減すること』を掲げ、更なる削減に取り組んでいきます。



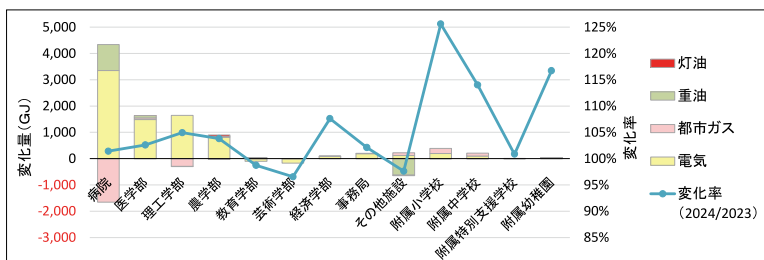
図①-1 キャンパス別エネルギー使用量



図①-2 燃料別エネルギー使用量



図①-4 キャンパス別CO₂排出量



図①-3 部署別エネルギー使用量の変化 (2024/2023年度)



② 水資源投入量と削減に向けた取組

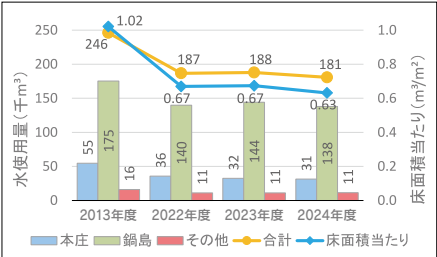
活動計画	結果
・上水使用量を調査・報告し、上水使用量の削減を促す。	ホームページにて公開
・水道等の機器は節水型の機器への更新を推進する。	改修等工事時に設置
・水道に節水コマを取り付け、水道使用量を削減する。	ほぼ全学の蛇口に取り付け済み
・井戸水を有効利用し、市水使用量を削減する。	井水と市水の使用量内訳を確認

水使用量

目標：2023年度比 1%削減 実績：6.3%削減 ○

2024年度の上水使用量（180,666m³）は、2023年度比で3.8%の削減、床面積当たりでは6.3%の削減となりました。また、公共下水排水量（159,610m³）は、2023年度比で2.8%の削減、床面積当たりでは5.3%削減となりました。

上水使用量をキャンパス別でみると、2023年度比で本庄キャンパスは3.2%の削減、鍋島キャンパスで4.3%の削減が達成され、その他キャンパスでは0.4%の増加となりました。本庄および鍋島キャンパスでの削減は、節水型トイレへの更新が進められたことが主な要因と考えられます（図②）。



図② キャンパス別上水使用量



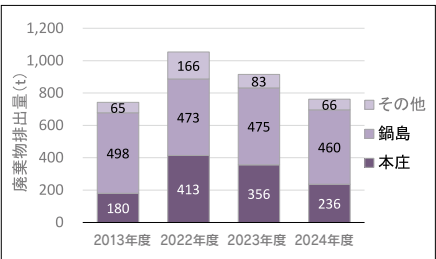
③ 廃棄物排出量と削減に向けた取組

活動計画	結果
1. 使用済み封筒の再利用を進め、学内使用として繰り返し使用する。 ペーパーレス会議、両面印刷、Nアップ印刷等の推進により、コピー用紙の使用量を削減する。	各部局で実施
2. 廃棄物排出量・コピー用紙購入量を調査・報告し、各部局に廃棄物排出量・コピー用紙使用量の削減を促す。 缶・ビン、ペットボトルの排出量を調査・報告し、リサイクルを促す。 資源ごみの排出量を調査・報告し、資源ごみの回収を促す。	ホームページにて公開

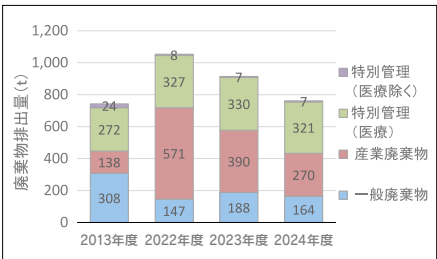
廃棄物排出量 目標：2023年度実績を維持 実績：16.8%削減 ○

2024年度の廃棄物排出量（761.7t）は、2023年度比では16.7%の削減を達成しました。キャンパス別にみると、本庄キャンパスは20.7%（120.5t）の削減、鍋島キャンパスは3.2%（15.1t）の削減、その他キャンパスは33.8%（17.2t）の削減となっています。これらの削減は、建物改修整備に伴う廃棄物の一時的な排出が落ち着いてきたことが主な要因と考えられます（図③-1、図③-2）。

なお、廃棄物置き場での廃棄物の不十分な分別がみられることがあり、廃棄物分別の徹底を進めていくことにしています。特に、産業廃棄物である廃プラスチックの分別が不十分で、一般廃棄物への混入により一般廃棄物処理場で受入れ不可になることがあり、課題の一つです。



図③-1 キャンパス別廃棄物排出量



図③-2 種類別廃棄物排出量

④ 化学物質管理の取組

活 動 計 画	結 果
1. 薬品管理システムの運用を促進する。	各部局で実施
2. 研修会等を開催し、化学物質の取扱等の再確認を行う。	ホームページにマニュアル等掲載
3. 実験系廃液処分のマニュアルの整備・周知を行う。	
4. 廃棄薬品等のマニフェストによる管理を行う。	各部局で実施
5. 排出水の pH 値等の確認・管理を行う。	施設課で実施
6. PRTR 届出書による化学物質の排出量の把握と管理を行う。	企画管理課で実施

目標：化学物質管理の強化 実績：CRIS 運用促進及び研修会開催

佐賀大学化学物質管理規程に基づき、化学物質の適正な管理を行っています。研究室で使用される化学物質は、原則として CRIS Ver.2 (Chemical Registration Information System、島津トラステック) に登録されており、毒劇物取締法、消防法、労働安全衛生法、PRTR 法に指定された化学物質について、その購入量、使用量、保管量が把握できる仕組みとなっています。

2024 年度の主な使用化学物質は、10% 中性緩衝ホルマリン液 1860.0kg、ドライソール（染色用溶剤：主成分エタノール）1,653.0kg、物理用キシレン 1,065.0kg など、使用量計 8,918kg となりました。

また、化学物質管理に関する法改正を受けて、CRIS を活用した化学物質管理およびリスクアセスメントの実施に関する講習会を開催し、管理体制のさらなる強化に取り組んでいます。

作業環境測定については、例年通り実施しました。測定関係者は個人サンプラーを使用した作業環境測定オンライン講習会に参加しております。



⑤ 環境教育の推進

活 動 計 画	結 果
1. オリエンテーションや大学入門科目での環境教育を実施する。	4月～6月各学部で実施
2. 学生ボランティア活動への支援を行う。	学生委員会への支援実施
3. ホームページへの掲載による活動の公表を行う。	ホームページで公開

目標：環境教育の充実 実績：新入生教育実施継続

例年、全新生に対して大学入門科目等で、リーフレットや動画教材を使った 1 コマの環境教育を必修としています。内容はエコアクション概要、学内や佐賀市でのゴミの分別などの解説です。2024 年度は、対面及びオンライン講義で実施しました。講義後の事後問題とアンケートは、主に SDGs に関する問題を中心に Forms にて出題し、ほとんどの問題において正答率 8 割以上となり、受講者の理解を得られました。

教職員向けの研修は、新任教員研修、職員フォローアップ研修などで、環境安全衛生管理室長が佐賀大学エコアクションの概要説明をしました。

※各学部等の取組の詳細については環境報告書の本編をご覧ください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 の目標 (ゴール) ・ 169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。

佐賀大学の教育・研究・医療活動に伴う環境負荷（2024 年度）
全体像図

- 1）環境に配慮できる人材の育成
- 2）環境の保全・改善のための研究開発
- 3）自然環境保全
- 4）環境マネジメントシステムの確立

